

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 4 月 30 日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100674
法人名	医療法人 裕智会
事業所名	グループホーム アルプスの風
所在地	鹿児島県鹿児島市 荒田一丁目11番1号 (電話) 099-296-8008
自己評価作成日	平成25年1月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年3月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の研修も充実し、グループホームでは管理者が認知症の指導者でもあり、看護職と介護職とを対象に認知症の研修を行っている。</li> <li>・医療連携体制を取り、日常的な健康管理を行っている。また、1階がクリニックとなっているため状態の変化にすぐに対応が可能であり、健康を基盤にそれぞれの入居者がその人らしい生活ができるように取り組んでいる。</li> <li>・月1回の音楽の専門家による「音を楽しむ会」、2ヶ月に1回ボランティアによる「音楽会」があり、入居者の楽しみとなっている。</li> <li>・地域の中学生の職場体験の受け入れや、保育園児が来訪して入居者と交流を図っている。</li> <li>・年3回の家族会や季節に応じた外出レクリエーションも行っている。</li> <li>・全体や個別レクリエーション、季節に合った物作りなど生活の中で機能維持を図れるように工夫している。</li> <li>・排泄・歩行機能維持を考え、トイレでの排泄継続を重要視している。それが生活者としての力につながると考えている。</li> </ul>
---

<p>○鹿児島市の交通局に近く、銀行やストアが近隣にあり、利便性の高い地域に建てられているホームで、同じ建物に法人のクリニック、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション等が併設されている。法人のクリニックとは連携が十分に図られており、利用者や家族にとって健康面での大きな安心となっている。</p> <p>○日頃より利用者の思いや意見を聞き取るように努め、ご家族の要望等も来訪時や家族会等で話しやすい雰囲気作りに心がけ、きめ細かく把握するように努めている。特に家族会の際には、家族会長を中心に家族同士の意見交換ができる場を設けて、多くの意見が得られるように工夫し、職員は情報共有のもと必要な場合は対応を速やかに協議してサービスに反映できるように取り組んでいる。</p> <p>○利用者一人ひとりが自由に暮らせるように、日常の会話、特に夜勤時には、利用者の気持ちが落ち着くような話し方を工夫し、ゆっくりと利用者の気持ちを聞くように心がけて把握に努めている。経過記録で情報を共有して利用者本位の支援に結びつくように取り組んでいる。</p> <p>○法人内の研修を積極的に実施している。グループホーム内でも管理者自らが、認知症ケアや重度化した場合の支援など、多くの研修テーマを設定して資料を作成、熱心に職員の育成に取り組んでいる。より良いケアの実現を職員が一体となって目指している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に地域との繋がりを大切にするとあっており、理念を目に入る所に掲示し全員が共有できケアに生かしている。	ホームの理念及び目標に沿って、地域や家族とのつながりの中で、利用者が老いることも楽しめる暮らしとなるようなケアの実現を目指して日々取り組んでいる。毎日の申し送りや月1回の職員カンファレンスを通じて理念の意義の理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや餅つきなど季節行事の参加を地域に呼びかけ、共に行事に参加する事で交流を図っている。	管理者や職員が地域の安全マップ作りや勉強会等に参加すると共に、ホームで開催する夏祭りや餅つき・認知症の勉強会等に家族や地域の方々に参加して頂くなど日頃から交流を図っている。保育園児の来訪や中学生の職場体験の受け入れ、音楽の専門家やボランティアによる定期的な音楽会の開催などもあり、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の際、地域の方の参加を呼びかけて認知症についての理解や支援について等意見交換している。学生の職場体験の受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(2ヶ月に1回)を開催し、グループホームでの入居者の生活状況を報告して課題や改善点などを意見交換を行っている。会議録を残し、職員間で共有してケアに生かしている。	会議は、家族や利用者・民生委員・地域住民・消防や地域包括支援センターの職員等が参加して定期的に開催されている。ホームの現況報告や行事・課題等について活発な意見交換が行われ日々のサービス向上に役立てると共に、避難訓練実施方法の改善や認知症ケアに関する講習会の開催等が実現している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営にあたり不明な点や相談事があった際は状況に応じて、市の担当者へ随時問い合わせ、助言や協力をもらっている。今後も継続して市の担当者との連携を図り、サービスの向上に努める。	市担当者には訪問や電話による、各種の手続きや運営上の相談に助言・対応して頂くなどの連携を図り、協働してサービス向上に取り組んでいる。また、地域包括支援センターとは、運営推進会議に出席して頂くと共に、地域の活動を通しての情報交換や意見交換等の協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止についての研修を実施し全員参加するようにしている。研修を通し、身体拘束廃止についての理解を深めていき、今後も身体拘束廃止に努める。現在は身体拘束の事例なし。	職員は安全に十分配慮し見守りを徹底して自由な暮らしの支援に努めている。わずかでも改善の必要な事例が生じた際には、ヒヤリ・ハット報告書にまとめ、これを基に繰り返し勉強会を行いケアへの反映に取り組んでいる。また、言葉による拘束の排除を含む身体拘束については、マニュアル整備や法人全体の研修を通じて理解を深め、日々のケアの中でも繰り返し確認して支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止についての研修と共に高齢者虐待防止についての研修も実施し、職員全員参加するようにしている。今後も虐待が見逃されないような環境を作り、虐待防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての研修を受けており、今後必要な状況に応じて関係機関と連携を図りながら活用していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には、契約書を読み合わせを行い、入居者及び家族が疑問点など随時質問できるようにしている。今後解約や改正などが必要になった際は、その都度十分に説明を行い理解して貰える様に努めていく。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フロア入り口にご意見箱を設置している。家族会では、家族のみで意見交換できる時間を設け、後でその意見は家族会会長より管理者へ報告され、事業所の運営に反映している。	利用者の思いや意見は日々の会話や所作の見守りで、ご家族とは来訪時や家族会等での対話で把握に努めている。家族同士の意見交換で出された要望等を含めて、職員は情報を共有して必要な場合は申し送りや職員カンファレンスで対応を協議し、速やかに本人や家族に報告してサービスに具体的に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員カンファレンスを月1回実施して、意見が出せる機会を設け、運営・業務の内容や方法も職員間の協議を重要視し、反映するようにしている。	職員の意見や提案は、毎日の申し送りや定例の職員カンファレンスで聞き取ると共に、日常のケアの中での対話を通じて把握に努め、業務改善やサービス向上につなげるように努めている。また、定例の会議の議題も職員に意見を求めたり、ケアに関する決定はテスト運用して検証・修正するなど、状況に応じて柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働く環境・条件を整える為、目標管理面接や、人事考課表を活用して、客観的な指標のもと、頑張りを適切に評価できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の機会を設け、外部研修にも参加しているが、今後更に本人自らの外部研修受講意欲に繋るように努力していきたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修における同業者との交流の機会や同業者の実習受け入れによる交流の機会がある。今後ともサービスの質の向上を図る努力を惜しまない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面接で得た情報を基に本人の困りごとなどを聞くようにしている。サービス開始時にはその人の「思い」を反映した暫定ケアプランを作成し安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、困りごとなどを聞く機会を設けている。これ馬d背の介護にた対するねざらいと、要望の理解と、介護負担の軽減に向けた話しなどで関係を作れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時に優先順位を考えている。何をどのようにしたらいいのかを考え、早期に入居者の安心や安定となるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援・できることはする。という意識となるように働きかけている。アセスメントを十分に行い「できること」を把握して、共同生活者としての良い関係を図っていく必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族と私達は入居者を挟んだケアチームであると、話しをしている。面会に関しては、喜んで足を運べるような環境設定の努力も必要である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会の自由を確保しており、職員も付き添うなど、これまでの生活が保てるように努めている。	入所時の聞き取りやご家族の来訪時に利用前の情報を把握し、カルテやケアプラン・経過記録等で情報を共有して、馴染みの美容室や商店・外食等に、ご家族の協力も得ながら支援に努めている。また、電話や手紙の取り次ぎ等と共に、利用者の知人や友人の来訪時には、ゆっくりと過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやティータイム等において共に楽しめる環境を整え、関係をつくっている。入居者同士お互いに助け合う様子もあり、今後もこの関係が継続できるように支援していく。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人内のサービス利用継続の人に対して、その後の様子を聞いたり、家族の要望があれば、必要なことを支援するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ふとした言葉や表情・心身の状態から、思いや希望を受け止めるようにしている。定期的にモニタリングを行うことで、思いを反映した支援ができたか確認している。	利用開始時の本人・家族からの聞き取りや、日常の言葉や表情・所作から思いや意向をくみ取るように努めている。特に夜勤時には、気持ちが落ち着くよう話しかけ、ゆっくりと聞くように心がけている。これらは経過記録で情報を共有し、必要な対応を検討して利用者本位の支援に結びつくように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や、御家族、ケアマネからの情報収集により、フェイスシートを作成し、職員が一人ひとりの生活背景や、状況を理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に、経過記録や生活日誌に必ず目を通し、一人ひとりの情報収集を行っている。まず現状の把握ができないと、良い支援はできないと考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員の記入したモニタリングを参考にして、計画作成担当者が、総合的な視点でモニタリングを行い、介護計画を作成している。実施の前に本人や家族とのカンファレンスで協議を重ね、介護計画に反映している。	介護計画は、本人・家族から希望や意向を聞き、定期受診の際の主治医からの意見や担当職員のモニタリング等も反映した利用者本位のものを作成している。また、定期的にケアの経過を評価し、必要な修正を施すと共に、状態変化に対応した話し合いのもと計画修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータイングの様式で経過記録の記載をしている。実施した支援や、本人の思いや状況は、フォーカスの文面からだけでも収集でき、必要な情報の把握を含め、支援や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の思いや状況の変化を把握して、支援を行っている。豊かに発想を広げることで、入居者の多面的な理解となり、柔軟な支援やサービスに繋がっていくと思ひ、努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや校区の中学校の「職場体験」、地域の保育園児の受け入れなど、入居者の安全で豊かな地域生活に向け可能な地域資源の活用をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一階に主治医のいるクリニックがあり、定期的に受診をしている。日中、夜間の状態の変化にも対応ができる。	本人や家族の希望に沿って併設の協力医療機関で月2回、職員同行で定期的に受診している。受診記録は定期受診表に、薬局からの情報はカルテに整理しており、関係者間で情報の共有を図っている。家族には電話やメールで連絡・報告を行っている。また、利用者の状況に応じて協力医療機関で適切な医療が受けられる状況である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者(看護師：法人との兼務)とクリニックの看護師による医療連携体制があり1週間に1回の健康チェックや、随時の看護判断等の体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成して、情報の提供を行っている。入院時は家族や病院関係者と連絡を取ったり、見舞いに行くなどして状態の確認をしている。退院した後のケアを職員で話し合い、早期回復に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの介護に対する指針を作成して入居時に説明・同意・契約を行っている。また、定期的にカンファレンスを行い、ケアの方向性について説明をしている。看取りの必要性がある時には再度協議をする体制ができています。	重度化や終末期のケアについては、「重度化・看取りに関する指針」により方針を説明し、同意を得ている。本人や家族と話し合い、主治医や職員と十分に連携を図り、ホームとして様々な状況に可能な限り支援・対応できる体制を築いている。また、管理者は自ら資料を作成して、職員に対する勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命の院内研修や、応急処置・緊急時の対応を学んでいる。緊急時のマニュアルもあり、研修を通して知識を身につけ、実践に繋がられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる想定で年2回の避難訓練を計画。消防署立ち会いの下で実施し、災害時の知識や避難方法の指導を受けている。地域住民にも参加を依頼している。	年2回消防署の協力を得ながら火災や地震を想定した避難訓練を行い、消防署からは関連する講話や指導も受けている。訓練には民生委員や地域住民にも参加頂き、利用者の見守りを願っている。スプリンクラーや自動通報装置等も整備され、食料や飲料水をはじめとする備蓄も問題のない状況である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と接する際は、人格や誇りを尊重して、一人ひとりにあった言葉かけや対応を行っている。	利用者に尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねないように、日常のケアやミーティングを通じて職員が話し合いながら、丁寧な声かけや対応を心がけている。マニュアルの整備及び個人情報保護や認知症ケア等の研修も実施され、各種の個人記録等も適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で入居者とのコミュニケーションを大切にしている。希望を表出し自己決定ができるようにと職員全員が意識し、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや趣向、希望を大切にした上で、その日、その時の意向の把握に努め、入居者中心の生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居者がその日に着たい洋服を選び、職員と共に組み合わせを考えている。毎朝の整髪などでその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にその日食べたい物を聞いて献立を立て、調理の時から食事を楽しめるように工夫している。台拭きやお盆拭き、後片付けなど入居者の力を活かしながら共同生活をしている。	日常会話で把握した利用者の好みを献立や味付けに反映させている。また、買い物や食卓の準備・後片付けなど、個々の利用者の能力に合わせ、一緒に行っている。敬老会時の外食・家族会を兼ねたクリスマス会や花見の弁当・季節の行事食・手作りおやつ提供など、利用者の楽しみにつながる工夫も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食事形態はその人に合わせ、栄養バランスを考え嫌いなものにも配慮している。水分の摂取量は1日に必要な量を満たすよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清潔の重要性を職員が理解し、清潔の保持と感染症の予防のため、それぞれの入居者に応じた口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄支援は、羞恥心やプライドに配慮して行っている。排泄の自立が認知症の進行の遅滞になると考え、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	利用者の様子観察や必要に応じての排泄チェック表の活用で利用者個々のリズムを把握し、誘導や声かけはプライバシーにも十分配慮して排泄の自立のための支援を行っている。一連の工夫はケアプランにも反映し、個人の状態や習慣に応じた排泄支援になるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをして必要な支援に繋いでいる。便秘が心身に及ぼす影響を考え、日常的には飲食物の工夫や個々に合わせた運動も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望やタイミング、体調などを考慮し、週3回の入浴を実施している。入浴を楽しめるよう取り組んでいるが、常時好きな時に入浴ができる支援はできていない。	利用者の希望や健康状態に配慮し、時には清拭や足浴への変更も含め、基本は週3回ゆったりと安心して入浴できるように支援している。入浴時は、コミュニケーションを十分取りながら身体状況の観察にも努めている。入浴を拒否されるような場合には、時間帯の変更やタイミングの良い声かけで気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安な状況があれば安心して入眠出来るよう環境を整えている。室温や湿度を考えながら快適な睡眠が取れるよう工夫している。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬に対して、薬剤師から、副作用・用法・用量など「薬剤管理指導」を受けている。主治医が症状と服薬の目的を説明し、状態の改善や変化が理解できる環境である。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた自立支援を心がけ、調理・食器の後始末や洗濯物たたみなど、生活における役割と、レクリエーション活動・散歩などの気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買い物などの外出の機会がある。また、入居者と相談の機会を持ち、花見やそーめん流し・敬老会など外出レクリエーションを実施している。外出レクリエーションに家族の参加も呼びかけたいが実現できていない。	利用者の健康状態や天候を見ながら、近隣の散歩や買い物、ベランダでの日光浴等を楽しんで頂いている。また、利用者の希望も確認しながら、敬老会時の外食や花見・そーめん流しなどにも出かけている。日曜日には、利用者個々の希望にも沿って市内各所へのドライブも支援して、外出が楽しみなものになるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	職員と家族はお金を所持することの大切さを認識し、入居者の力に応じた金額を所持してもらっている。職員と共に買い物にいけるように、小口現金としても預かり、支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	その時の心身の状況を考慮しながら職員が支援している。書いた手紙は、面会時に家族に渡すなどの工夫をしている。交信の自由は基本的な事と捉えて重視し、支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居者と職員とで共同制作した季節を感じられる絵や置物を飾り、見当識低下による混乱を避け、できるだけ気の合う入居者との食卓の配置などで安心出来る環境を設定し、居場所作りや居心地に配慮している。	リビングはゆったりとしたスペースで明るく、落ち着いた雰囲気である。季節感のある貼り絵や折り紙など職員と共同制作した作品を飾っている。大きめのソファも配置され、清潔さや空調にも細かな配慮が感じられ、利用者が自由に気持ちよく過ごせるような環境作りがなされている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	入居者同士のコミュニケーションが図れるレクリエーションの組み立てと共に、ひとりで自由な時間が楽しめる生活への配慮もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や、持ち物を持参してもらっている。居心地よく過ごせるように、毎朝の清掃や、定期的な寝具交換も行っている。	居室にはホームが準備したエアコンとベッドがあり、ベッドの配置などは利用者やご家族の希望に沿って、対応している。利用者には普段使い慣れた寝具やテーブル・椅子・衣装ケース・日用品・写真等を自由に持ち込んで頂き、ご家族とも協力しながらプライバシーにも配慮して、本人が落ち着いて暮らせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は、一人ひとりの状態の変化による安全・安心な環境を大切に、できるだけ自立した生活ができるように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に地域密着についてうたっており、目に入る場所に掲示し、意識の共有はできている。地域との交流体制もある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、餅つき、保育園児や中学生の「職場体験」の受け入れを通して地域との交流を図っている。事業所自体が日常的に交流することは難しいが、努力をしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験時や運営推進会議で認知症の理解への取り組みと、認知症ケア専門士や認知症サポーターのステッカーを貼り、地域の人が相談に来れるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を開催し、グループホームの生活の様子や、課題や改善点などの意見交換を図り、詳細については記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	分からない事は相談し、指導や助言を受けている。協力関係の重要性を認識しており、更なる協力関係を築けるように努力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止の法人内研修をグループホームが主体となり実施。全職員が身体拘束0の意識を持っている。身体拘束廃止のマニュアルもあり、定期的に評価を行う事も明記している。現在まで身体拘束の事例はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の必須研修として、法人内で当グループホームが研修の主体となり実施。人権や及ぼす影響も学び、虐待が見過ごされる事もない環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が社会福祉と権利擁護について学び、職員と共にケアや言動、記録の中から養護する権利を明確にしている。権利擁護と関係機関などの知識を得るため、成年後見制度についても学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書を読み合わせ、疑問点があれば質問できるようにしている。解約や改定が必要となったときは十分な説明をして、納得してもらうよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入り口の「御意見箱」、家族会では家族のみで話す時間を設けている、匿名での意見として受け取り、運営に反映するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員カンファレンスを月に1回実施して、意見が出せる機会を作っている。運営・業務の内容や方法も職員間の協議を重要視し、反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働く環境・条件を整えるため、目標面接や、人事考課表を活用して、客観的な指導のもと、頑張りを適切に評価できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間約5回の内部研修を設け、外部研修参加の紹介も行っている。様々な外部研修にも参加しているが、本人の積極的な外部研修受講には今一步の努力が必要である。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修における同業者との交流の機会や、同業者の実習受け入れによる交流の機会がある。情報の共有や、やりがいにも繋がる同業者間のネットワーク作りには努力が必要である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面接で得た情報を基に、本人の困りごとなどを聞くようにしている。サービス開始時にはその人の「思い」を反映した暫定ケアプランを基に更に詳しくアセスメントを行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行ない、困りごとなどを聞く機会を設けている。これまでの介護に対するねぎらいと、要望の理解、介護負担の軽減に向けた話などで関係をつくれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時に優先順位を考えている。何をどうしたらいいのかを考え、早期に入居者の安心や安定となるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できることはする」という意識を持ち自立できるように働きかけている。アセスメントを十分に行ない「できること」を把握して、共同生活者としてよい関係を築けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族とスタッフは入居者を挟んだケアチームであると話している。面会に関しては喜んで足を運べるような環境を作る努力も必要である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同伴での外出や面会の自由を確保している。今までの関係が少しでも維持できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやティータイムにおいて、共に楽しみながら関係を作っている。時折、入居者同士で助け合う光景も見られ、この関係の継続ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療ニーズが高くなり病院に転院した入居者のご家族が、その後も法人のクリニックを利用していただき、関係の継続ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの暮らしや思いを知るために、入居前の情報の収集と生活の背景を知り、心身の変化による希望や意向の変化の理解にも努め、本人主体の生活を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族や担当であったケアマネージャーからの情報収集や、フェイスシートを作成して職員が一人ひとりの生活背景や、状況を理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に経過記録や生活日誌に目を通し、情報収集をするようにしている。重要なことは口頭でも伝言するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が記入したモニタリングを参考にして、計画作成担当者が介護計画書を作成している。実施の前に本人や家族とのカンファレンスで協議を重ね、介護計画に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャートニングの様式で経過記録をしている。実施したケアや本人の思いや状況は、フォーカスの文面からだけでも収集でき、必要な情報の把握や、ケア・計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の思いや状況の変化を把握したケアの実施。真のニーズと、職員の様々な発想とで、入居者の多面的で柔軟な支援、サービスの確実さや豊かさに繋がるよう努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進委員会を開催し、地域の方の意見を取り入れるよう努力し、レクリエーションで作成した展示物などを地域のイベントに出展するなどの交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の定期受診や、体調が悪い時には1階のクリニックをすぐに受診できるように、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中の状態の変化や毎週火曜日の医療連携体制・看護師の健康チェックを通じ、情報の共有や意見の交換を行うようにしている。些細なことでも報告しあうよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には身体や生活の状況などをできるだけ細かくサマリーにて提供し、入院中の見舞いを通じて、早期退院に向けた病院関係者との情報の交換を心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期に向けた指針として説明、理解を得ている。ケアカンファレンスや家族会を通じて事業所で出来る事を説明し協力を得られるよう指針の共有化に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修受講時に、緊急時の対応と応急手当方法の実技指導を受けている。また、緊急時のマニュアルを基に学びを深め、実践に繋げるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、安全に向けた初期対応が出来るように取り組んでいる。避難訓練実施日には地域住民にも参加を依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室にはいる時のノックや、着替えの時の目隠しなど気をつけている。また言葉賭けの時の口調や声音など、羞恥心やプライドに配慮しているが、十分といえないこともある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の好き嫌いや趣味を聞き、希望や思いをレクリエーションや食事などを通して反映して、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの得意なことや違いを理解して、その人のペースや、趣向、希望を大切に、職員が協力しながら入居者の生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人がその日に着たい服を選ぶことや、化粧や整髪などで、その人がおしゃれを楽しめるように支援することを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の得意な入居者が、職員と共に食事の準備をしていて、台拭きお盆拭き、後片付けなどそれぞれの入居者の得意なことや力を生かしながら共同生活をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理の際、偏らないように栄養バランスを考慮し、入居者の状態や嗜好にも配慮している。飲水量の少ない人は1日摂取量を満たすように声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清潔の重要性を職員が理解して、毎食後に口腔ケアの声掛けと必要な支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄は、認知症の進行にも関わる重要なことであり、可能な限り排泄の自立が継続できるように、羞恥心やプライドに配慮して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぼす影響を考え、排便のチェックをして、必要な支援につないでいる。日常的には食物の工夫や、個々人に合わせた運動も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日は決めているが、個々人のタイミングにあわせた入浴を心がけ、希望がある際は出来る限り対応出来るよう努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安な状況があれば、その思いを受け止め入眠前の安心を大切にしている。室温を考えながら快適な睡眠が取れるような工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬剤管理指導を受けている。主治医からも症状と服薬の指導があり、薬剤の効果と状態の変化にも気づける体制にある。服薬は手渡しで確実にやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自立支援を心がけ、調理、食器の後始末や洗濯物たたみなどの生活における役割と、レクリエーションや活動・散歩などの楽しみごとや、気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買い物などの外出の機会がある。また、花見やソーメン流し・敬老会の食事会など外出レクリエーションの機会もつくっている。家族と共に外出する事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つことの安心感を考え、入居時に家族と相談し、持たせてもらえるようにしている。また、小口現金も預かり、希望のものを職員と共に買いにいけるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をしたい時には、家族の状況を考慮して支援している。手紙は面会時に渡したことはある。交信の自由は基本的なことと捉え大切にしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアには季節を感じられるような絵や置物を共同制作し飾っている。入居者が混乱、不快にならないような環境作りを心がけているが、自立支援に繋がるような適度な環境圧力設定も大切と考えている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者同士の交流が図れるようレクリエーションに取り組んでいる。（トランプ・おはじき・創作活動など）また、プライベートな時間を持つことも大切と支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具や持ち物を持参してもらうよう家族とも相談している。個人の状況に合わせ、清掃や定期的な寝具交換の支援もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内で戸惑うことがないように環境を整えている。一人ひとりの入居者に合わせた声掛けなどを行い、安全・安心な生活が送れるよう工夫している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが

		4 ほとんどいない
--	--	-----------

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない